

年月日

17

06

19

ページ

31

N.O.

段ボール製運転台

堀江車両電装

堀江車両電装がPR用に
造った段ボール製運転台

目的」と人材確保に悩む業界の認知度向上に貢献する構え。

鉄道の仕事 子どもに周知

鉄道車両の整備と点検を行う堀江車両電装（東京都千代田区、堀江泰社長、03・5213・4728）の段ボール製運転台が注目されている。実物大で速度などを遙隔制御するマスター・コントロール（主幹制御器）を手で動かすことができるのが特徴。それが子どもたちの心をつかんだようで、自治体などから出展のオファーがある。

段ボール車両は今野梶包（宮城県石巻市）に依頼して作製。大きさは横2850ミリ×奥行き1720ミリ×高さ3550ミリ。片の実物大で、2月の埼玉県飯能市や6月の西武鉄道の電車イベントで評価を得た。また、手のひらサイズの電車が作れる段ボールキット販売も好評。堀江社長は「商売が目的ではなく、車両整備など鉄道の仕事を知つてもらうのが目的」と、人材確保に悩む業界の認知度向上に貢献する構え。